

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年1月19日

1. 職名・氏名 教授・平井 一芳

2. 学位 博士（医学）、専門分野 公衆衛生学、授与機関 福井大学、授与年 2006年6月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 臨床栄養学（2単位）2年生 オムニバス講義
②内容・ねらい	食物の摂取から消化、吸収、体内での代謝にいたる栄養学の生理・生化学的な基礎について説明する。そのうえで、生活習慣病予防・改善のための食生活および高齢者や病気に罹患した患者の臨床栄養管理について理解し説明できるよう促す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	対面講義、Zoomによるオンラン講義を併用し講義を行なった。パワーポイントを用いてスライドに写真や図を盛り込んだり、動画を利用したりして複雑な体内代謝や具体的な臨床栄養（栄養管理法や食事療法、非経口栄養法など）について、できるだけ解りやすく解説した。また、GC、LMSの活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説しながら解答し理解の補完に努めた。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 産業保健論（1単位）3年生 オムニバス講義
②内容・ねらい	産業保健の歴史と現状および労働衛生管理について概説し、働く人を対象とする、産業保健師の役割を示す。事業所や労働衛生機関などの産業現場における産業保健師の活動と、事業主や従事者との関わりについて説明する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	対面講義、Zoomによるオンラン講義を併用し講義を行なった。産業保健師の活動について、さまざまな現場での具体的事例や近年の身近なトピックなどを取り上げるなどして産業保健についての関心を喚起した。また、GC、LMSの活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説しながら解答し理解の補完に努めた。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 公衆衛生学（2単位）1年生
②内容・ねらい	物理・化学・生物学的環境および社会環境の健康への影響について概説する。疾病予防、健康保持・増進、健康寿命の延伸を目指した組織だった社会を通じた保健活動や個人、家族さらには地域、国レベルまでのさまざまな健康支援の在り方について説明する。ライフステージおよび地域、学校、職域といった生活の場で行われている公衆衛生活動について説明する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

対面講義、Zoomによるオンラン講義を併用し講義を行なった。公衆衛生活動の意義と社会・経済・行政との関りについて資料や新聞記事等から、特に身近な福井県の話題を多く取り上げるなどして具体的関心を喚起する。内外の公衆衛生活動について具体的事例を提示し、グローバルな視点で現状や課題についても理解を深め、公衆衛生マインドの涵養を促した。また、GC、LMSの活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説しながら解答し理解の補完に努めた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
疫学（2単位）2年生

②内容・ねらい

将来の保健師、看護師としての実践活動、教育研究活動の場面で健康事象（疾病など）と、それらの関連要因を明らかにするために疫学の基礎を解説する。疫学的な考え方を涵養する。科学的方法論としての疫学の概念・方法を説明し、疫学により示される科学的エビデンスや研究方法論を看護や保健活動の場に活かす可能性について理解を促す。様々な疫学研究方法の特徴を解説する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

対面講義、Zoomによるオンラン講義を併用し講義を行なった。集団の健康状態を把握することの重要性と疫学で用いられる基本的な指標の理解を促した。演習として計算問題を盛り込み理解を補完した。また、GC、LMSの活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説や解答し理解の補完に努めた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
保健統計学（2単位）2年生

②内容・ねらい

集団における健康科学の方法論について概説する。科学論の基礎、確率、統計、疫学、人口統計について説明し、記述統計、統計的推論の手法を解説する。人口・疾病統計や臨床研究など、看護や保健活動の場でどのように活かすかを教授する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

対面講義、Zoomによるオンラン講義を併用し講義を行なった。集団の健康状態を把握することの重要性と保健統計で用いられる基本的な指標の理解を促し、保健統計データをどのように活かすかを教授した。また、GC、LMSの活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説や解答し理解の補完に努めた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
導入ゼミ（1単位）1年生

②内容・ねらい

「福井県の健康長寿」を題材に自分の興味や関心のあるものからテーマを設定し、「健康長寿」について理解を促し探索させる。情報収集、プレゼンテーション、レポート作成の基本的技術を養成する。また、発表と討論を行い論理的思考力、傾聴能力、意思伝達能力を養成する。

<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面講義、Zoomによるオンラン講義を併用し講義を行なった。学生が「自ら学び、考え、行動する力」を養えるように「受動型学習」から「能動型学習」を重視した。また、GC、LMSの活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説や解答しながら理解の補完に努めた。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養特講D：福井を学ぶ（2単位）1~3年生 オムニバス講義</p>
<p>②内容・ねらい 福井県立大学で学び始めた新生が、福井という地域の特性について幅広く学べるよう、福井が有する多様な資源を世界的な視点のなかに位置づけ、地域における大学が果たす役割を理解させる。自らが位置する福井という地域の基本的知識を習得させ、地域に関連した研究関心の基盤を形成させるとともに、グローバル化した多様な価値を適切に評価しうる自己の立脚点を確立させる。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Zoomによるオンラン講義を併用して講義を行なった。 「福井県の健康長寿」をテーマに取り上げ、福井の特性（県民性、社会性など）の理解を促し、自らの属する地域社会と県民の健康について涵養できることを目指した。また、出席、レポート課題などは、GCを活用して迅速的確に行なった。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 環境保健学特論（2単位）大学院1年生 オムニバス講義</p>
<p>②内容・ねらい 環境保健学について概説し、環境と健康・疾病に関する問題について公衆衛生学的見地から理解を深め、各自の研究課題に沿った研究方法論の学習など、アカデミックな素養の基礎的トレーニングを行う。情報（データ）を多面的に見て、その背景から分析にいたるまでの根拠を論理的に考察する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Zoomによるオンラン講義を行なった。 研究を進める上での必要な基礎知識として、疫学、保健統計学について理解を深めるべく仮想データなどを用いて計算演習を行なった。また、データ解析における統計手法のサポートに留意した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護マネジメント学特論（4単位）大学院1年生 オムニバス講義</p>
<p>②内容・ねらい 社会が求めるヘルスケアサービスの提供のために、保健医療福祉の政策を概観し必要な組織の構築や他組織と連携し協働するための看護理念を揚げそれを具現化することができる能力を高める。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Zoomによるオンラン講義を行なった。 社会保障の概念（社会保障制度改革の基本的考え方、医療・福祉・介護に関する制度改革・効率化）を鑑みて看護現場の現状をデータ化・分析し、組織目標から具体的な事業へ考察できることを重視した。</p>

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護マネジメント学演習（2単位） 大学院2年生 オムニバス講義
②内容・ねらい 看護マネジメント学研究方法に対する理解を深め、論理的思考能力を養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 研究が臨床の場や地域のニーズに合った問題と文献を基に、自己の研究テーマおよび研究方法を明確化し、研究計画書作成とプレゼンテーションができるようサポートした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護マネジメント学特別研究（10単位） 大学院2年生 オムニバス講義
②内容・ねらい 研究課題、研究の背景、研究の意義、研究目的、方法を明確にし、研究計画書を完成する。 データ収集、解析に必要な統計手法を理解し実施する。 修士論文を作成する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 研究遂行において自主性を尊重しサポートした。情報・統計リテラシーの理解を促した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等（ポスター発表） 地域在住高齢者のフレイルとその関連要因（身体活動、睡眠、うつ、社会活動）との関係 第81回日本公衆衛生学会総会（2022年10月：山梨），共同報告者無	

【1 件】
⑤その他の公表実績
【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 文部省科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者 【学内】 看護福祉学部〔KF 枠研究費〕研究代表者
(3)特許等取得
(4)学会活動等
【学会活動】 日本衛生学会, 日本産業衛生学会, 日本公衆衛生学会, 運動疫学会, 日本体力医学会, 日本産業衛生学会北陸甲信越地方会, 産業保健人間工学学会, 北陸公衆衛生学会, 日本体力医学会北陸地方会 (副理事長) 【研究会活動】 福井スポーツ健康科学研究会 福井体育研究会

5. 地域・社会貢献活動

<p>①国・地方公共団体等の委員会・審議会</p> <p>福井県健康づくり推進協議会 (健康運動分野に関する委員, 2002 年～現在に至る) 「健康ふくい 21」計画推進部会 (健康運動分野に関する委員, 2003 年～現在に至る) 福井県スポーツ推進審議会 (健康運動分野に関する委員, 2004 年～現在に至る) 福井県健康管理協会評議員会評議 (健康運動分野に関する委員, 2006 年～現在に至る) すこやか長寿センター運営委員会 (健康運動分野に関する委員, 2016 年～現在に至る) 福井市建築審査会 (公衆衛生学分野に関する委員, 2018 年～現在に至る) 福井県済生会病院 地域医療連携運営委員会 (公衆衛生学分野に関する委員, 2021 年～現在に至る) 福井県国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員(2022 年～現在に至る)</p> <p>②国・地方公共団体等の調査受託等 該当なし</p> <p>③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加</p> <p>NPO 法人日本健康運動指導士会: 福井県支部長 (単位認定健康運動指導士研修会開催, 自治体主催の健康づくり事業に参画, 自治体等の依頼を受け健康運動指導士の派遣等, 1998 年～現在に至る) 福井 ARC を支援する会: 第三者委員 (アディクション (依存症) 回復支援施設 2021 年～現在に至る)</p>
--

- ④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
三崎医院（福井市；患者への運動処方，カウンセリングおよび運動指導を週1回，2003年～現在に至る）
- ⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
福井大学医学部（協力研究員，2013年～現在に至る）
- ⑥進路探究講座（2022年10月31日：丸岡高校）
公開講座（2022年9月17日，24日）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
入試制度検討委員会（2018年～現在に至る） 学科入試制度検討WG（2018年～現在に至る） 看護福祉学部大学院博士課程WG（2020年～現在に至る）
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス（2022年8月）
(4)その他、自発的活動など